

広告特集 企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

1日目「SDGs達成の障壁とは」



大和証券販売額
7,352億円

総額
1兆
5,061億円

大和証券は
約49%の
シェア

社会課題への投資を促進
注目を集めるSDGs債

集めた資金がSDGsに貢献する事業のみに使われる債券。グリーンボンド(環境問題)、ソーシャルボンド(福祉・教育など)のほか、これら二つの分野を同時にカバーするサステナビリティボンドがある。

■日本国内で販売されるSDGs債(個人投資家向け)
※大和証券調べ(2008年3月~2020年3月)

行動につながるキャッチコピーをつける

最初のワークは、17の目標がさらに詳細に示された169の「ターゲット」を広めるための日本語キャッチコピーづくり。まずはチームに分かれ、事前学習として各自で取り組んだターゲット3・8の英語原文の和訳と、このターゲットが設定された背景のリーサー結果を共有します。「3・8」とは、目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」の8番目にあたるもので、財政リスクからの保護や質の高い基礎的な保健サービスへのアクセスなどが記されています。

生徒たちは自分なりの和訳を読み上げ、コピーのアイデアを披露。同じ状態を表しても「平等に」「格差のない」「誰でもや」「保障される」「奪われない」のように、伝え方は様々です。お互いの意見を聞きながら、訴えかけるべきだと感じたことを話し合い、コピーを練り上げました。発表されたコピーは、端的な表現にこだわった「誰でも手軽に健康を保てる環境へ」や、読み手に想像させる工夫を取り入れた「空気のように広がる健康」など、議論の成果が見取れる力作ぞろい。この授業の講師を務める大和証券グループ本社の川那部留理子さんは「どのチー

ムも背景をきちんと読み解いたコピーです」と拍手を送りました。

子どもたちの命を救った「おカネの流れ」

後半は、証券会社が事業として取り組むSDGsを川那部さんが解説。SDGsの達成には世界全体で年間約7兆ドル(最大)が必要で、ODA(政府開発援助)だけではまかなえない額だといいます。そこで大きな役割を果たすのが、証券会社が発行する「SDGs債」(左枠)です。個人や企業がこの債券を購入することで、銀行預金などで眠っていたお金が社会課題の解決に使われる「おカネの流れ」が生まれます。

一例として挙げられたのが、2008年に大和証券が日本で初めて手がけた「ワクチン債」。予防接種普及に取り組む機関を資金調達面で支援する団体が、大和証券を通じて日本の個人投資家に向けて発行したもので、投資家への返済金として世界10カ国の10年以上にわたる寄付金を原資とすることで誕生しました。一度に多額の資金が集まったことでワクチンの早期接種が実現。その結果、多くの子どもたちの命を救うことができたようになりました。大和証券はこのほかにも、様々なSDGs債を取り扱っています。

生徒たちの声

投資には寄付とは違うメリットがあるんだとわかった!

債券の存在を多くの人が知れば世界は変わっていくのではと感じた

SDGs達成に向けた色々な対策を知り社会の仕組みに何だか感動した

世界には多くの課題があると気づいた自分にできることは何なのかを考えた

2日目に向けた事前学習

グループワークに備えて異なるターゲットについて調べ、キャッチコピーを考えてみよう!

感染症 (3-3)	女性の活躍 (5-5)
安全安価な飲料水 (6-1)	再生可能エネルギー (7-2)



SDGs みんなでつくる、みんなの目標!

169 TARGETS

アイコン日本版 ● 制作プロジェクト

SDGsで掲げられた17の目標には、より詳細な「169のターゲット」が示されています。今夏、このターゲットに対して具体的な行動を起こせるよう、全国の子どもや若者と日本語アイコン用のコピーを考える試みが始動。11月末まで募集しています。今回の授業はこの内容を活用して行われました。

▲応募詳細はこちら

出張授業 9月16・23日実施/青山学院中等部(東京都)

未来をより良くする おカネの流れを考える

2030年までに達成することを目指した、17の世界共通目標・SDGs(持続可能な開発目標)。これを「おカネの流れ」で後押しする動きが加速しています。大和証券グループが社会課題の解決につながった事例を解説する出張授業を開催。青山学院中等部の3年生23人が、2日間にわたり「金融機関が取り組むSDGs」を学びました。

※この授業はマスク着用などの感染症対策を講じた上で実施されました。集合写真の撮影時のみマスクを外しています。

2日目「SDGs債をつくる」

「誰一人取り残さない」を忘れずに

2日目は新たに調べたターゲットの背景や問題点の確認からスタート。知識を深めた生徒たちは活発に意見を交わし、日本語コピーをまとめます。この日は多様性に配慮した解釈が採り入れられたり、韻を踏んだり、より伝え方を意識したものに。そして最後のワークを前に、川那部さんからSDGsの理念(No one will be left behind.)が紹介されます。「これはSDGsの前身であるMDGs(ミレニアム開発目標)との大きな違いで、この世界で暮らすみんなを誰一人取り残さないことを謳ったもの。次のワークはそんな視点を忘れずに取り組みましょう」

未来を良くするSDGs債をつくらう

授業の総まとめとなるワークは、新しいSDGs債づくり。支援が手薄な分野の選定、国や国際機関と

の連携、返済金の回収方法といった幅広い議題が飛び出します。各チームが考案したSDGs債は、下の四つです。発表を聞いた川那部さんは一つひとつを講評し、ワークを通じて気づいたことはありませんか?と問いかけます。そして「開発途上国の教育が改善されると貧困率が下がる、という具合に17の目標はつながり合っています。掘り下げて見つけた共通点がヒントになり、同時に解決できるものもあるかもしれません。いつもそんなふうを考えながら、SDGsと向き合ってください」とコメント。生徒たちからは「達成の手順が示されているのだから、応える行動が大切」「今後、物を買う時はおカネの流れも意識したい」「海外の人の意見も聞いてみたい」と、未来を担う当事者としての頼もしい言葉を聞くことができました。



授業を終えて

学んだことと新たな問いを糧に

青山学院中等部 三好文子教諭

生徒たちは難しいワークに真面目に取り組む姿、話し合いを通して多くのことを学び合えたと思います。SDGsを多様な視点から考える機会になり、感謝しています。2日間で学んだことと新たな問いが、今後の糧になるようサポートしていきます。



大和証券グループからのメッセージ

課題解決のアプローチは様々

大和証券グループ本社 経営企画部 SDGs推進室長 川那部 留理子さん

着眼点に優れ、事前学習からきちんと取り組んでくれたことが伝わりました。授業ではSDGs債に加え、当社が共同で設立した基金、一定額が寄付される社員食堂のメニューや自動販売機なども紹介しました。社会課題の解決には様々なアプローチがあります。今日の授業を行動のきっかけとしていただければ、こんなにうれしいことはありません。



大和証券グループSDGs推進オリジナルロゴマーク

グループ全体で思いを共有し、SDGsの達成に向けた取り組みを推進していきます。

SDGs達成を、こんなSDGs債でサポートしたい!

再生可能エネルギーをもっと普及拡大させる	「食の支援」を軸として開発途上国の課題を解決	教育環境の改善と地域ごとの環境保全	安心できる生活のために医療従事者を増やしたい
太陽光パネルの設置補助、他国でつくったエネルギーの送電システムや技術者支援など、個人・国・企業といった様々なレベルでのプロジェクトを支える債券を提案。	開発途上国が抱える貧困・教育・水の確保・不平等などを解決するカギとして飢饉の解消を挙げ、食事の提供を支える債券を提案。投資家への返済金は国からの寄付を想定。	教材と教員を確保して開発途上国の教育環境を改善する債券、インフラ整備・環境保全を支援する債券といった複数のテーマで検討。環境保全では、外来種対策などを挙げた。	医療従事者を増やすプロジェクトを支える債券を提案。先進国と開発途上国が協働して人材を確保・育成するもので、技術講習などの発展的なアイデアも披露した。

1 貧困をなくそう 2 真実のSDG 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を實現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と雇用創出 10 人や国を超えて公正で包摂的な成長を 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくばない 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう

この授業の模様は朝日新聞DIALOGでも紹介しています

https://www.asahi.com/dialog/articles/13812140

大和証券グループは、金融機能を通じて社会課題と投資のニーズを結びつけ、課題解決に貢献する役割を担っています。

大和証券グループ Daiwa Securities Group

https://www.daiwa-grp.jp/sdgs/group_sdgs/